

## 自己評価報告書(最終報告)

報告者

生活・健康系コース(家庭)  
／福井 典代

## ■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

## Ⅰ. 学長の定める重点目標

## Ⅰ-1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれていることが必要である。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

## 1. 目標・計画

①「初等家庭科教育論」において、毎年受講生を班分けして、実験教材の提供と実験を取り入れた模擬授業を6回ずつ実施している。今年度においても学部生と長期履修生あわせて200名以上の履修が予定されているが、学校現場で活用できる実験・実習教材の提供と模擬授業を行う予定である。小学校家庭科の学習指導案が作成できることを最終目標として、各班で実施する模擬授業の自己評価・相互評価を行う。本授業は学部2年生後期の授業なので、3年生での教育実習の動機付けになるような助言指導を行う。

②「被服学実験」において、今までに本学で開発した教材を取り入れた実験を実施してきた。家庭科の教科書中に実験内容の記載が非常に少ないので、これからもなるべく短時間に活用できる実験教材を提案していく。

## 2. 点検・評価

①学部「初等家庭科教育論」は、学部2年生と院生をあわせて192名の受講生であった。18のグループに分けて学校現場で活用できる実験・実習を行い、グループごとに、実験内容を活用した模擬授業を実施した。はじめて模擬授業を行う学生も多かったが、学習指導案の作成と助言指導をうけて、教育実習に向けての動機づけになった。

②学部「被服学実験」、「中等家庭科教材論」と、大学院「衣生活学研究」、「家庭科授業・教材開発研究」の授業を中心として、本学で開発した教材を実施した。学生自身が教材に取り組みながら、学校現場でどのように活用したらよいかについて、学習指導案の作成により考察させた。

## Ⅱ. 分野別

## Ⅱ-1. 教育・学生生活支援

## 1. 目標・計画

①学生が主体的に授業に参加できるように、授業内容に関連した個人発表を授業中に取り入れる。

②2名以上で担当する授業について、講義内容の連携を密にする。

③卒論・修論指導の学生に対して、進路の相談に応じる。

## 2. 点検・評価

- ①「衣生活論」の中で、各学生が授業内容に関連した項目について冬休みに調査し、授業中に発表した。
- ②「初等家庭科教育論」は2名の教員で担当している。受講生が非常に多いため、前半の実験・実習は一斉に指導するが、後半の模擬授業では2クラスに分けて授業を行った。前半の内容について理解するため、必ず2名がすべての授業に参加して授業内容の連携を密にした。
- ③卒論指導の学生に対して進路の相談に応じ、夏休み中に模擬授業の指導を繰り返し実施して、香川県小学校教員に1名採用された。

## Ⅱ-2. 研究

### 1. 目標・計画

- ①従来から研究を進めている「通信販売における女性用フリーサイズのヌード寸法と仕上げ寸法の実態調査」をまとめて、日本家政学会で発表する。
- ②科学研究費補助金の申請を行う。

## 2. 点検・評価

- ①「通信販売における女性用フリーサイズのヌード寸法と仕上げ寸法の実態調査」について日本家政学会で発表した。現在、投稿に向けて執筆中である。また、「合成洗剤のすすぎ性能に関する基礎的研究とその教材化」について日本家庭科教育学会で発表した。さらに、「高等学校『家庭基礎』における教科連携と食幾実践-英語科との連携による調理実習-」の論文を食育学会に投稿した。
- ②「タデ藍を用いた沈澱藍の生成と染色条件の検討ならびに教材開発」という研究課題で、科学研究費補助金の申請を行った。

## Ⅱ-3. 大学運営

### 1. 目標・計画

学部入試委員会、安全管理委員会、臨床研究倫理審査委員会、教職実践演習実行委員会の各委員として、大学の運営に貢献する。

## 2. 点検・評価

学部入試委員会、安全管理委員会、臨床研究倫理審査委員会、教職実践演習実行委員会の各委員として、大学の運営に貢献した。

## Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

### 1. 目標・計画

- ①教育支援講師・アドバイザーに登録し, 地域・社会との交流・連携を行う。
- ②徳島県消費生活審議会委員として任務を遂行する。
- ③平成23年度教育免許状更新講習の講師として任務を遂行する。
- ④日本家庭科教育学会四国地区会の役員として任務を遂行する。

### 2. 点検・評価

- ①徳島市佐古小学校において保護者を含めた6年生130名のTシャツの藍染め実習を行った(6月10日)。徳島県総合教育センターにおいて, 第12回全国中学生創造ものづくり教育フェア徳島県予選二次審査を行った(9月24日)
- ②徳島県消費生活審議会委員として任務を遂行した(2回)。
- ③平成23年度教育免許状更新講習の講師として任務を遂行した(9月3日)。
- ④日本家庭科教育学会四国地区会の副会長として任務を遂行した。
- ⑤第58回日本家政学会中国・四国支部研究発表会を鳴門教育大学にて実施した(10月8・9日)。
- ⑥徳島県くらしのサポーターとして家庭コース(代表者福井)が認定され, 交流会に学生2名を派遣した。

## Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

- ①第58回日本家政学会中国・四国支部研究発表会を鳴門教育大学にて実施した(10月8・9日)。